

# 八甲田山火山ハザードマップ（十和田市）

八甲田山で発生が予想される噴火について、大岳火口の場合の図を示しています

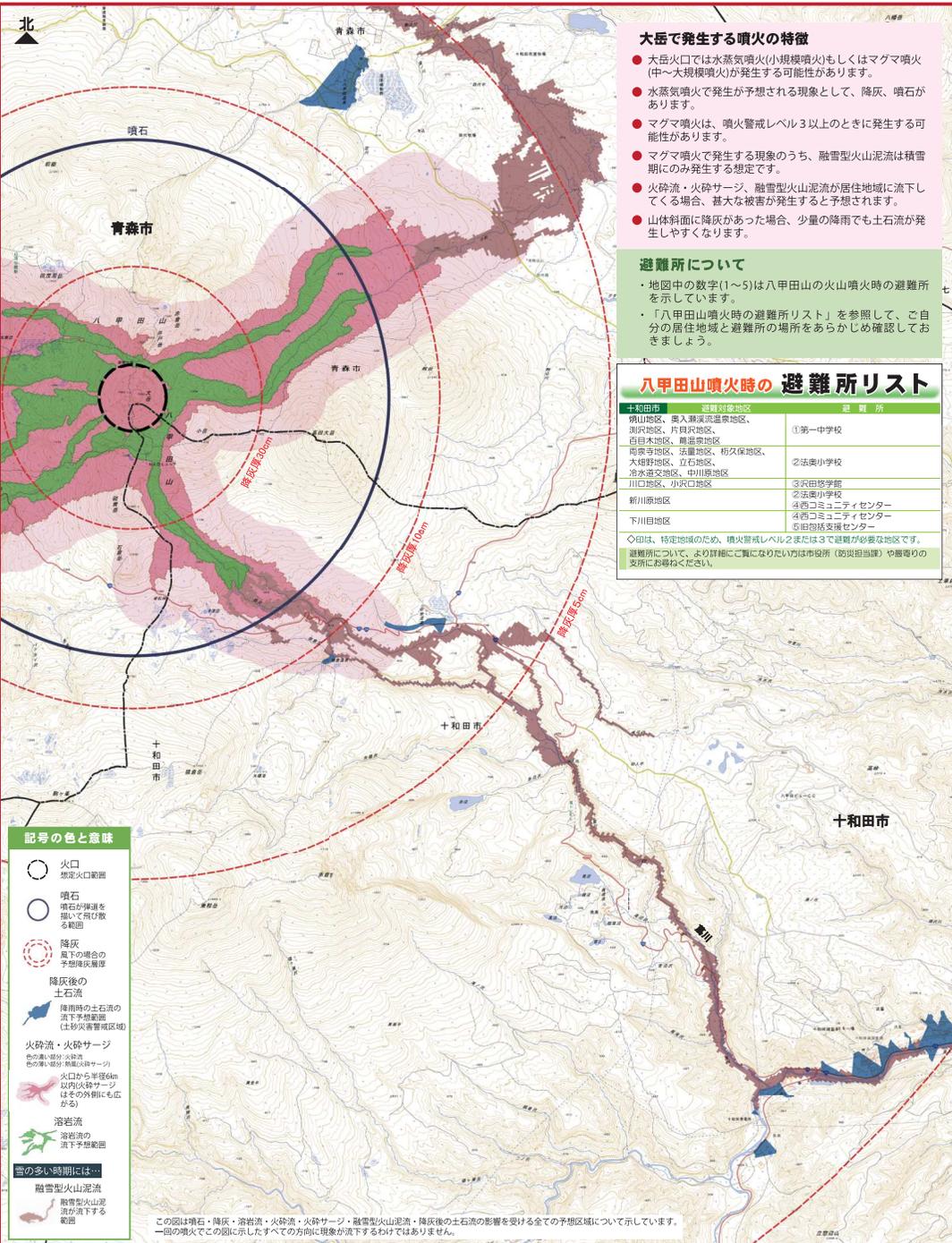
# 八甲田山で予想される噴火現象とその影響

● 八甲田山の噴火にもよって様々な噴火現象が発生すると予想されます。ここではそのうちの代表的な現象について示しています。

## マグマ噴火の場合（大岳 大規模噴火）

大規模噴火：噴火警戒レベル3以上の段階で発生する現象と影響範囲

〔火砕流・火砕サージはレベル3以上で発生  
融雪型火山泥流はレベル4以上で、かつ、積雪期にのみ発生〕



### 大岳で発生する噴火の特徴

- 大岳火口では水蒸気噴火(小規模噴火)もしくはマグマ噴火(中～大規模噴火)が発生する可能性があります。
- 水蒸気噴火が発生が予想される現象として、降灰、噴石があります。
- マグマ噴火は、噴火警戒レベル3以上で発生する可能性があります。
- マグマ噴火が発生する現象のうち、融雪型火山泥流は積雪期にのみ発生する想定です。
- 火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流が居住地域に流下してくる場合、甚大な被害が発生すると予想されます。
- 山体斜面に降灰があった場合、少量の降雨でも土石流が発生しやすくなります。

### 避難所について

- ・ 地図中の数字(1～5)は八甲田山の火山噴火時の避難所を示しています。
- ・ 「八甲田山噴火時の避難所リスト」を参照して、ご自分の居住地域と避難所の場所をあらかじめ確認しておきましょう。

### 八甲田山噴火時の避難所リスト

十和田市 避難対象地区	避難所
噴山地区、奥入瀬渓流沿道地区、測沢地区、片貝沢地区、白目地区、舞臺地区、阿部野地区、湯田地区、朽久保地区、大畑野地区、立石地区、冷水渡交地区、中川原地区、山川地区、小沢口地区	①第一中学校
新川原地区	②法興小学校
下川目地区	③法興中学校 ④西コミニティセンター ⑤田沼支援センター

◇印は、特定地域のため、噴火警戒レベル2または3で避難が必要な地区です。  
避難所について、より詳細にご覧になりたい方は市役所（防災担当）や避難所の支所にお尋ねください。

<p><b>降灰</b> (火山灰・小さな噴石)</p> <p>風の向き</p> <p>風下側の広範囲に影響</p> <p>火山で噴火が起きると火口から火山灰や火山ガスが放出され、噴煙が形成されます。噴煙に含まれる火山灰や小さな噴石は風に流されて、火山の風下側に積もります。降灰は少量でも道路の視界が弱くなったり、目や気管支に影響が出ることがあります。</p> <p>有珠山の噴火による降灰に覆れた車</p>	<p><b>噴石</b> (大きな噴石)</p> <p>火口～中腹まで影響</p> <p>爆発の勢いが激しい場合、火口から岩が弾道を描いて飛び散ることがあり「大きな噴石」と呼ばれます。大きな噴石が建物に直撃すると、屋根や壁を突き抜けることがあります。</p> <p>有珠山の噴火による噴石(上)と屋根に穴のあいた建物(下)</p>	<p><b>溶岩流</b></p> <p>火口の周囲に影響</p> <p>溶岩流は、高温で溶けた岩石(マグマ)が火口からあふれ出して遅い速度で流れ出すものです。</p> <p>シナブシ火山の溶岩流</p>	<p><b>火砕流・火砕サージ</b></p> <p>火砕流は、高温の火山ガス・軽石・火山灰などが混合し、高速で流下する現象です。流下するスピードは時速100kmを超えることもあり、噴火で起きる現象の中でも特に破壊力が大きな恐ろしい現象です。火砕流が発生する時は、火砕サージと呼ばれる高速・高温で危険な熱風を伴って流れます。</p> <p>火砕流が発生する仕組みによって、溶岩・融雪型火山泥流、噴煙柱崩壊型火砕流・専門的に呼び分けることもあります。</p> <p>雲仙普賢岳の火砕流</p>	<p><b>融雪型火山泥流</b></p> <p>積雪期に噴火が起こると火口周辺の雪が高温の火砕流に覆られた場合などに、急速に雪が融けて融雪型火山泥流が発生します。この泥流は流下する途中で樹木や漂流石の岩を巻き込んで破壊力を増し、山麓に大きな被害をもたらします。大量の泥水が短時間に発生するため、降雨が発生する土石流に比べて危険範囲が広がります。</p> <p>このほか噴火とともに火口跡から少量の泥水が流れ出す泥流(火口湖決壊型泥流)が発生することもあります。</p> <p>十勝岳の噴火による火山泥流で氾濫した川の様子</p>	<p><b>降灰後の土石流</b></p> <p>降雨による泥水と土砂が入り混じって沢を流れる現象です。火山泥流と同様、流下の途中で川沿いの樹木や大きな岩を巻き込むことによって、山麓に大きな被害をもたらすことがあります。</p> <p>噴火によって山に火山灰が積もった場合、比較的少ない降雨でも土石流が発生しやすくなります。</p> <p>昭和50年に岩木山の百沢で発生した土石流の氾濫の様子</p>	<p><b>火山ガス</b></p> <p>噴火の活動が活発になると、二酸化硫黄や二酸化炭素を多く含むガスが放出される場合があります。風の弱い時などに噴気孔周辺の凹地などに立ち入りすると非常に危険です。</p> <p>しゃもほうかい・じ 斜面崩壊・地すべり</p> <p>噴火や地震などが引き起こって山の斜面が大きく崩れたり、滑り落ちる現象です。</p> <p>発生する規模が大きいために、山麓に大きな被害をもたらすことがあります。</p> <p>噴火によって山に火山灰が積もった場合、比較的少ない降雨でも土石流が発生しやすくなります。</p> <p>地下のマグマが地表付近に上昇した場合に、火山やその周辺の土地を変形させることがあります。道路や建物が被害が出ます。</p> <p><b>地震</b></p> <p>マグマが地表付近に上昇する際に、周辺の岩盤を揺らして地震を発生させます。マグマの上付近の地表では、震度5以上の有感地震になることもあります。</p>
--	---	--	---	---	--	--

### 記号の色と意味

- 火口 想定火口範囲
- 噴石 噴石が弾道を描いて飛び散る範囲
- 降灰 風下の場合の季節噴灰降量
- 降灰後の土石流 積雪期の土石流の流下予想範囲(土砂災害警戒区域)
- 火砕流・火砕サージ 色の濃い部分:火砕流 色の薄い部分:火砕サージ 火口から半径6km以内(火砕サージはその外側にも広がる)
- 溶岩流 溶岩流の流下予想範囲
- 雪の多い時期には... 融雪型火山泥流 融雪型火山泥流が流下する範囲

この図は噴石・降灰・溶岩流・火砕流・火砕サージ・融雪型火山泥流・降灰後の土石流の影響を受ける全ての予想区域について示しています。一回の噴火でこの図に示したすべての方向に現象が流下するわけではありません。

このマップで想定した条件

※噴石の発生は火口周辺に限定した範囲を想定。大岳火口は500m以内、500mの火山灰が12月の平均風速で吹出された場合を想定(全方向に示す)

※火砕流は火口から半径6km以内の範囲を想定。大岳火口は500m以内、500mの火山灰が12月の平均風速で吹出された場合を想定(全方向に示す)

※火砕流は火口から半径6km以内の範囲を想定。大岳火口は500m以内、500mの火山灰が12月の平均風速で吹出された場合を想定(全方向に示す)